

本特集テーマのnext

学校と地域をつなぎ、

双方の課題に協働して取り組む

「コーディネーター」

社会に開かれた教育課程の実現が求められる中、学校と地域を理解し、橋渡しを行う「コーディネーター」の存在に注目が集まっている。岩手県立大槌高校にコーディネーターとして常駐し、地域課題や地域人材と学校をつなぐ認定NPO法人カタリバ職員の菅野祐太さんに話を聞いた。

学校と地域をつなぎ、

「真正な学び」をつくる

岩手県立大槌高校には、私を含めて3人のコーディネーターが学校に常駐しています。それぞれ職員室に机があり、今年度は私は3学年団の所属です。大槌町と高校が連携し、復興の担い手を育てる教育を行うためには、地域と学校の両方の視点を持った人材が学校に常駐することが重要であるという認識の下、コーディネーターが

配置されています。

大槌高校でのコーディネーターの仕事(図1)は、学校と地域をつなぐことです。教師や生徒を地域の人々とつなぎ、教育活動と地域課題をつなぎます。「総合的な探究の時間」や地域に開かれた学校設定科目の設計、学習評価の際に用いられるルーブリックの作成にも携わります。また、教師や生徒が町民と学校の魅力化について語り合える場を設けたり、町と学校が未来の高校のあり方を協議す

図1 大槌高校における
コーディネーターの主な仕事

カリキュラムの開発

「総合的な探究の時間」における「三陸みらい探究」や、学校設定科目として設けている教科の探究学習のカリキュラム開発。

探究学習の指導

前述の「三陸みらい探究」や学校設定科目で、特に生徒が放課後に活動する際の指導や支援。

学校と地域のコーディネート

探究学習や学校設定科目に取り組む上で必要となる、学校と地域の企業や人材との橋渡し。学校と地域間の情報共有。

特別選抜の出願書類の作成指導

探究学習などでの生徒の活動内容や、そこで育まれた資質・能力を知る立場として、志望理由書や活動報告書の作成を支援。

コンソーシアム体制(構想会議)の構築

教育に必要なリソースの拡充、教育課程のあり方などについて、大槌高校や地元の中学校、行政、民間企業、保護者などが集まり、検討する構想会議の運営。また、高校魅力化構想(骨子)の策定など。

※菅野さんへの取材を基に編集部で作成。

る場を設定したりしています。

地域と連携した学びの魅力は、生徒が、学校で学んだことを生きて働くものとして発揮できる「真正な学び」を体験できることです。しかし、学校と地域がそれぞれ取り組みたいことは、最初から合致しているとは限りません。そこで、学校と地域の双方の事情を知るコーディネーターがそれぞれの真意をくみ取り、互いを受け入れられるように橋渡しをします。

例えば、「総合的な探究の時間」に取り組む中で、ある生徒が、若者の居場所となるカフェのような場所をつくりたいと考え、応援してくれる大人を探していました。

ちょうど同時期に、地域の方から、「子ども食堂を始めたけど、思ったように人が集まらない」という声を聞いていました。そこで、生徒と地域の方をつなげられないかと考え、生徒に、「こんな活動をしている地域の人がいるよ」と紹介し、活動を見に行くことを勧めました。生徒たちは話し合い、子ども食堂に手伝いに行くことを決めました。さらに、地域の方に、「生徒が来たら、大人たちが何に困っているのかを生徒に話してみてください」とお願いしました。子ども食堂の目的と直面している問題を知った生徒は、校内で子ども食堂の存在をPRしました。その結果、



認定NPO法人カタリバ職員
大槌町教育委員会教育専門官
菅野 祐太 かのの・ゆうた

大学卒業後、民間企業に就職。東日本大震災発生後、休職し、被災地となった岩手県大槌町に居住。行政や学校と連携して、中学生・高校生の放課後の学習場所であるコラボ・スクール「大槌臨学舎」を立ち上げる。その後、カタリバに入職し、大槌臨学舎の統括担当として勤務。2017年4月より、NPOから行政に出向する形で大槌町教育専門官として、地域と協働した高校教育改革に携わる。19年4月より岩手県立大槌高校カリキュラム開発等専門家として同校に常駐。文部科学省「コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議」委員。内閣官房長官主催「こども政策の推進に係る有識者会議」臨時構成員。

利用者は一気に増えました。また、高校生の利用も増えたことで、当初生徒たちが考えていた「若者の居場所づくり」も実現しつつあります。

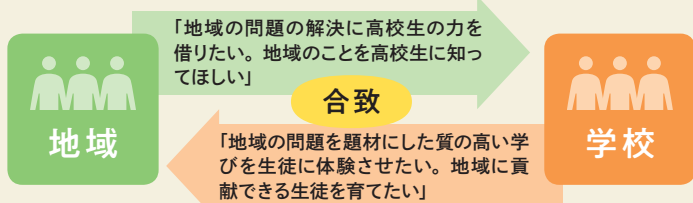
そのように、学校と地域の課題をつなげ、協働して取り組む方を模索するために、コーディネーター

図2 学校と地域の思いをつなぐコーディネーター

◎学校と地域がそれぞれの思いをぶつけると……



◎相手の立場を理解しながら思いを伝えと……



コーディネーターが両者の思いを伝わりやすく言語化

菅野さんが考える「教師がコーディネーターと協働する際のポイント」

- ・ コーディネーターと、生徒の成長について共有し、生まれた成果を楽しむ。
- ・ 教師も、地域に対して興味を持つ。例えば、地域の人たちが学校を訪れた際には、教師が積極的に地域の人たちに声をかけ、その話に耳を傾ける。
- ・ コーディネーターは、教師とは異なる視点の持ち主である。生徒の想定外の成長を期待し、コーディネーターに任せられる部分は任せる。
- ・ P D C A サイクルの「P (プラン)」に時間をかけすぎずに新しい取り組みに挑み、振り返りはコーディネーターと丁寧に行うことで、次の取り組みに生かしていく。

※菅野さんへの取材を基に編集部で作成。

学校と地域の思いが
つながることが重要

コーディネーターは、学校と地域の双方の思いを受け止めて、行動します(図2)。学校の思いだけで行動してもうまくいきません。例えば、地域から「町の行事

に、高校生に参加してもらいたい」と相談を受けたとします。地域は高校生を人手として期待しているわけです。しかし、その要望をそのまま学校に伝えても、「それは生徒のためになるのか?」と受け入れてもらえないでしょう。地域の要望を学校に受け入れてもらうためには、学びの文脈が必要で、町の行事の課題や生徒が

コーディネーターと出会い、
その存在を生かすために

地域との連携を進めるために、コーディネーターの配置を考えている学校も多いと思います。そうした人材を探している学校はま

担う役割を理解し、どのようなかわりをすれば、どんな資質・能力の育成の機会となるのかを先生方に伝えなければなりません。そのため、コーディネーターには、教育に関する豊かな知見が必要です。

一方、コーディネーターと協働する先生方には、地域の実情や課題、地域が持つ資源、そして地域住民の願いを理解することが求められます。例えば、探究学習において、生徒が自身の興味・関心だけで設定した課題では、地域の協力を得るのは難しいこともあります。生徒の設定した課題が地域の課題と密接に関連していれば、地域の方の意識は変わります。探究学習であれば、地域が学校にかかわりたくなるテーマにするなどの工夫をするとよいでしょう。

ず、地元自治体の「企画財政課」「総合政策課」などの部署に相談してみるとよいと思います。ただ、その際、「教員免許取得者がよい」「高校生とかかわった経験も必要」などと、多くの条件を出すと、具体的な名前はなかなか挙がってこないでしょう。私は、コーディネーターに最も求められるのは、生徒や先生方と一緒に学んでいく姿勢だと思っています。ですから、教員免許がなくても、社会教育に携わった経験のある方などから適切な人材が見つかるかもしれません。コーディネーターの候補が見つかったら、学校に招いて地域について生徒と話し合ってもらい、その様子を見て、適切な人材かどうかを判断するとよいと思います。

実際にコーディネーターを配置しても、資料の作成や地域との事務的なやりとりしか任せることができている学校もあると聞きます。現場の先生方の業務負担が軽減されているのであればそれでもよいのかもしれませんが、せっかくコーディネーターという先生方とは異なる視点を持った存在を迎

え入れたのですから、地域との連携のあり方や、それを授業に生かす方法などについて、コーディネーターに積極的に意見を聞いていただきたいと思っています。そのためには、先生方とコーディネーターの相互理解が欠かせませんし、それは両者が机を並べ、生徒と接する中で感じた喜びや楽しさを日々語り合う中で深まるのだと考えます。

また、コーディネーターを迎えた学校の管理職の先生には、コーディネーターにどんな役割を求め、コーディネーターとともにどんな学校を目指すのか、先生方に発信していただきたいと思っています。そうした写真があつてこそ、先生方はコーディネーターと積極的にしかかわることができません。さらに、管理職の先生は、現場の先生とコーディネーターの連携がうまくいった時は、双方をほめてあげてほしいと思います。そうすることで、コーディネーターという新しい役割が、先生や生徒とともに学びをつくる存在として、学校に根を下ろしていくはずで

イベントのご案内

VIEWnext PRESENTS

2022年
2月4日(金)
オンラインで
開催!

本誌特集テーマとも連動!

自校の研修・会議に使える! 対話促進スキル向上・オンライン講座

— 学校と地域をつなぐコーディネーターが語る — 両者の連携を深める対話のあり方



講師

認定NPO法人カタリバ職員
大槌町教育委員会教育専門
官の
菅野祐太

◎東日本大震災後、岩手県大槌町に、中高生のための「大槌臨学舎」を設立。カタリバに入職し、大槌臨学舎の統括担当として勤務。

VIEW next 編集部は今年度、対話型の研修や会議を実現するために必要な対話促進スキルの向上を目的としたオンライン講座を、特集のテーマと連動させる形で開催しています。今回は、認定NPO法人カタリバ職員で、学校と地域をつなぐコーディネーターである菅野祐太氏に、地域連携を推進する中で行われる地域との対話において、学校側が連携先に伝えるべきことや、対話上留意すべき点についてお話しいただきます。

開催日時 2022年2月4日(金) 16時00分～17時10分

形式 オンライン(ライブ配信) ※お申し込みいただいた方に、詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み方法 右の2次元コード、または下記URLから登録してください。

<https://enquete.benesse.ne.jp/forms/o/wef9859676/form.php>

参加申し込み締め切り 2022年1月28日(金) 参加費 無料

